まちと人の想いが交わる情報交差点
広報こうさ
2026 November No.688

Kosa Style
こうさ スタイル

大切な農地を守る新たな力
若き女性ハンターの挑戦



「マイペースに仕事ができる農業は、自分の性格にとても合っている」と長田さん。これからはカボチャ栽培にもじっくり取り組みたいそう。「種をまいて初めての収穫までの工程が、一番好き」と農業の魅力を語る。

長田 翠さん
Midori Nagata
［津志田区］

米、麦、大豆を中心に、カボチャなどの野菜も育てている長田翠さん（28）。令和3年に就農し、実家の田畑を受け継ぎ、父とともに守りながら農業に励んでいる。そんな長田さんが狩猟免許を取得したのは、今年9月。現在は猟友会への登録手続きを進めており、町の有害鳥獣駆除隊の一員として、これから第一歩を踏み出す。

狩猟免許を取得しようと思ったきっかけは、丹精込めて育てたスイートコーンがアナグマに荒らされたこと。「これから収穫という時に、せっかく育てたものを駄目にされてしまって、本当にショックでした」と長田さん。昨年にはイノシシに田んぼを荒らされた経験もあり、自宅近くの獣道ではイノシシの足跡を見つけることもあるという。

長田さんが使うのは「くくり罠（わな）」。狩猟免許を取得してからは、地域の生産者から「あそこにイノシシの足跡があった」「早く捕まえてほしい」と声を掛けられることも増えた。「自分の田畑だけでなく、地域の田畑も守れたら」と周りの期待に応えようと思いは膨らむ。一方で、初めての捕獲には不安もあるという。もし仕留める際に困ったことがあれば、猟友会のベテランハンターに応援をお願いできるので、「それなら安心」と笑顔を見せる。

狩猟期間で捕獲したイノシシやシカはどうするのか尋ねると、「自分でさばいて家族と食べたいと思います。解体の方法は、動画を見ながら勉強中」と長田さん。もともとジビエに抵抗はなく、母親が以前の職場から時々もらってきていたシカ肉がとてもおいしかったことから、シカやイノシシの肉にもなじみがあり、「あのシカ肉がまた食べたい」と、通販で購入したこともあるほどだそうだ。

現在はニワトリも飼育していて、足を悪くしてしまったヒヨコをさばくこともあり「命をいただくことへの感謝を胸に刻んでいます」と話す長田さん。農業も狩猟も、命を育て、命をいただく営み。その1つ1つに向き合う長田さんの姿からは、農業への真摯（しん し）な思いが伝わってくる。

町の基幹産業である農業を有害鳥獣から守るという重要な役目を担う駆除隊の平均年齢は68・5歳。高齢化が進む隊の中で、長田さんは唯一の女性、若い世代の担い手として期待されている。津志田地区では狩猟をする人を見かけることも少なく、今回の免許取得を知った生産者仲間からも期待の声を掛けられることも増えた。

農業を支える若き担い手として、そして地域の農地を守る新たな力として、活躍が期待される長田さん。「自分の田畑と、地域の田畑を守るために、駆除隊の一員としてこれから頑張りたいです」と語る目は、新たに歩むハンター活動への期待に明るく輝く。

発行 甲佐町
発行人 甲佐町長 甲斐高士
編集 企画課
TEL 096-234-1111（代表）
FAX 096-234-3964
URL https://www.town.kosa.lg.jp/

UD FONT by MORISAWA